

平成 29 年度林業労働実態調査の概要

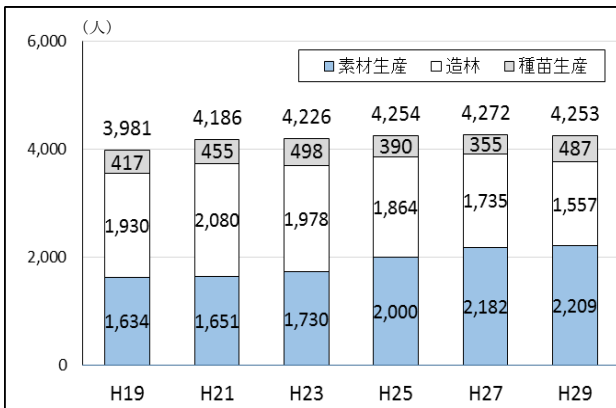
1. 調査の目的

本道で素材生産や造林、種苗生産を行っている林業事業体を対象として、道内における林業労働者の実態を把握することにより、林業労働者の安全衛生の確保、技術・技能の向上、福利厚生充実など、今後の林業労働対策の施策立案や統計に活用することを目的とする。

2. 調査結果の概要

(1) 林業労働者数の推移

- 人工林が利用期を迎え、伐採事業量が増大する中、機械化が進んでおり、林業労働者数は4,253人と概ね横ばいで推移。

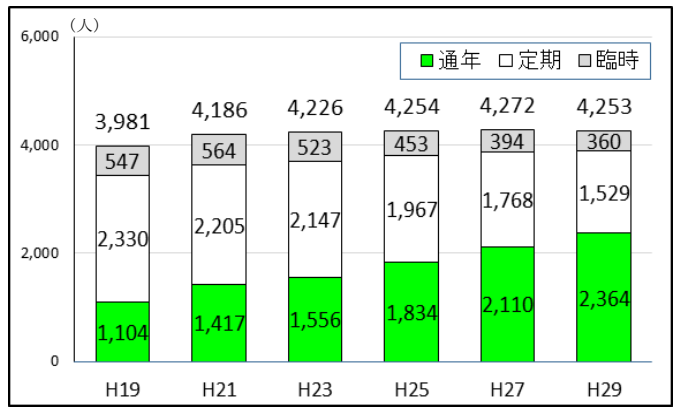


<事業種区分>

素材生産： 林内又は山元土場において素材（丸太）を生産すること
 造林： 地拵、植付、下刈等
 種苗生産： 苗木の生産

(2) 雇用形態別林業労働者数の推移

- 通年雇用者は2,364人で、年間を通して伐採など林業に従事する通年雇用が増加し、労働者数全体の半数以上を占める状況。

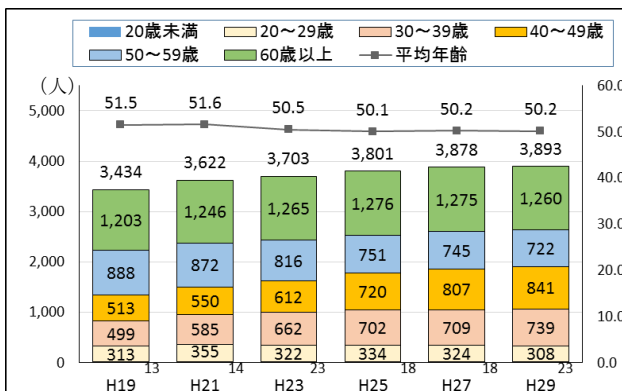


<雇用形態区分>

通年雇用： 年間を通じた雇用
 定期雇用： 被保険者期間が通算して1年未満6ヶ月以上の雇用（一般的には季節労働者と呼ばれる）
 臨時雇用： 通年、定期以外で一時的な雇用

(3) 年齢別林業労働者数の推移

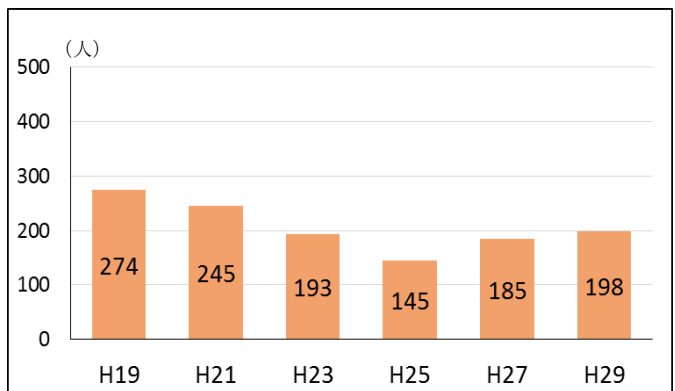
- 平均年齢は10年間で1歳以上若くなっているものの、60歳以上の割合は依然として高い。



※通年雇用と定期雇用のみ

(4) 新規参入者数の推移

- 新規参入者は198人で、平成25年度を底に上昇している。



※通年雇用と定期雇用のみ